

# 黒岩探訪

たんぼう

14

KUROIWA  
くろいわ

ねがいこめ百庚申の行者塚

今年の運動会高学年種目の組み体操の演技の中で、黒岩カルタから題材として八つの札を取り上げ表現していただきました。その内の一つがこの札です。今回はこれを取り上げます。

## 一 庚申とは

干支（えと）は普段十二支（じゆうにし）を意識していますが、詳しくは十干（じっかん）と十二支（じふにし）の組み合わせで甲子（きのえ）から癸亥（みずのえ）までの六十通りがあります。これが六十で一巡する（と還暦です。庚申（かのえさる）も六十年に一度、また六十日一度巡ります。

じっかん 十 干 甲 (きのえ) 乙 (きのと) 丙 (ひのえ) 丁 (ひのと) 戊 (つちのえ) 己 (つちのと) 庚 (かのえ) 辛 (かのと) 壬 (みずのえ) 癸 (みずのと)	じゅうにし 十 二 支 子 (ね) 丑 (うし) 寅 (とら) 卯 (う) 辰 (たつ) 巳 (み) 午 (うま) 未 (ひつじ) 申 (さる) 酉 (とり) 戌 (いぬ) 亥 (い)
---	---

## 二 庚申信仰とは

江戸時代に急速に庶民の間に広まった信仰です。庚申の日の夜、人々が集まって話や食事をしながら夜を徹して過ごし「三尸（さんし）の虫」が天帝（てんてい）に会いに行くのを防ぐ行事です。体の中にいる三尸は、庚申の日に人が睡眠中に天に昇り、天帝に人の罪過（ざいか）を告げて命を縮めようとするので、それを防ぐため寝ないで過ごしたといわれます。

## 三 庚申塔とは

右記の行事の証拠に建てた石造物です。市内でも多い石造物はこの庚申塔で、旧市内全体で約千基を数え、石造物全体の30%を占めます。江戸時代後期の庚申年にあたる寛政12年（1800）年前後の建立が多いことが特徴です。

## 四 百庚申とは

一箇所に百基前後の庚申塔が集まるところを百庚申といい、富岡市内では、中高瀬や田篠にも見られます。

## 五 機足百庚申について

機足百庚申は機足地区の富岡霊園の上の塚状の所にあり、中高瀬に多いのが九基の庚申塔を数えます。4年（1715）、寛政6年（1794）、享保9年（1799）、寛政12年（1800）、文政7年（1824）、天保7年（1836）があり、また、記名されたなかには河原姓や野口姓があり、この地区のご先祖がしるべきです。この地区の言読み札に「行者塚」についていいます。

黒岩地区には、比較的多くの石造物が残されており、黒岩の伝統文化を感じます。紹介の機会にしたいと思います。



写真 運動会での機足百庚申の表現



写真 機足百庚申（提供文化財保護課）